

下水道事業について

事業名	南大阪湾岸流域関連公共下水道 北部処理区			
下水道排除方式	分流式（一部合流式を含む）			
供用開始年月日	平成2年2月1日			
法適・非適用の区分	法適用企業【一部適用】 （令和2年4月1日より）	汚水処理水量	6,449千m ³	
		現在処理人口	52,681人	
整備面積（ha）	汚水	594	雨水	443
	合流	45	汚水	118
管渠延長（km）	雨水	73		

下水道施設の現況

表 各ポンプ場施設の主要な施設・建物・設備の状況

ポンプ場施設	項目	設置年	標準耐用年数
羽衣ポンプ場	躯体 沈砂池、ポンプ棟等	1983 ~ 1984	50
	スクリーンかす設備（汚水・雨水）	1985 ~ 2005	15
	汚水沈砂池設備	1985 ~ 2010	15
	雨水沈砂池設備	1985 ~ 2011	20
	汚水ポンプ設備	1985 ~ 1999	15
	雨水ポンプ設備	1984 ~ 1998	20
	ゲート設備	1984 ~ 1985	15
	脱臭設備	1985	10
	クレーン物あげ設備	1985	20
	ポンプ類	1984	10
高石ポンプ場	躯体 沈砂池、ポンプ棟等	1969 ~ 2011	50
	スクリーンかす設備（汚水・雨水）	1987 ~ 2013	15
	汚水沈砂池設備	1987 ~ 2000	15
	雨水沈砂池設備	1992 ~ 2013	20
	汚水ポンプ設備	1984	15
	雨水ポンプ設備	1972 ~ 1996	20
	高度処理設備	2004 ~ 2012	15
	消毒設備	1989	10
	雨水・滞水調整池設備	1975 ~ 2014	20
	クレーン物あげ設備	2012	20
高師浜中継ポンプ場	躯体 ポンプ棟	1993	50
	ゲート設備	1993	15
	スクリーンかす設備	1993	15
	汚水ポンプ設備	1993 ~ 2013	15
	用水設備	1993	15
	脱臭設備	1993	10
クレーン物あげ設備	1993	20	

：標準耐用年数を超過している項目

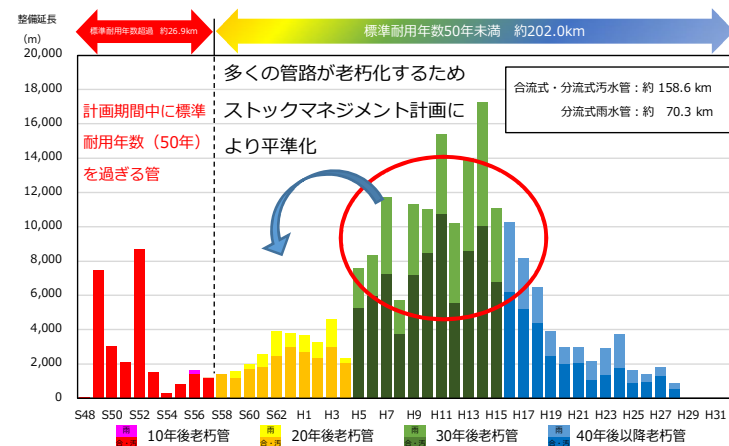


図 布設年度別老朽管延長

◆ポンプ場施設

現況では、左表のとおりポンプ場施設において老朽化（標準耐用年数を超過）している躯体・設備が多く、改築更新を実施する必要があります。

◆管路施設

現況では老朽化しておりませんが、計画期間中に標準耐用年数を過ぎる管路があります。また、今後30年後には老朽化する管路が多くなるため、適切に事業費を平準化し改築更新を実施する必要があります。

投資目標

表 投資目標

項目	投資方針	現状 (R1)	目標 (R12)	備考
老朽化改築更新	羽衣ポンプ場 高石ポンプ場 高師浜中継ポンプ場 管路	ストックマネジメント計画にてリスク評価や健全度、維持管理者ヒアリング、他事業との整合性などを考慮し、修繕改築の優先順位を設定し順次対応していきます。		健全度2.0以下を対策必要施設として設定し優先順位に従って実施を行います。 ストックマネジメント計画より
管路整備	汚水	整備済面積 594.0ha	整備済面積 605.0ha	
	雨水	整備済面積 443.0ha	整備済面積 458.5ha	事業計画様式1より

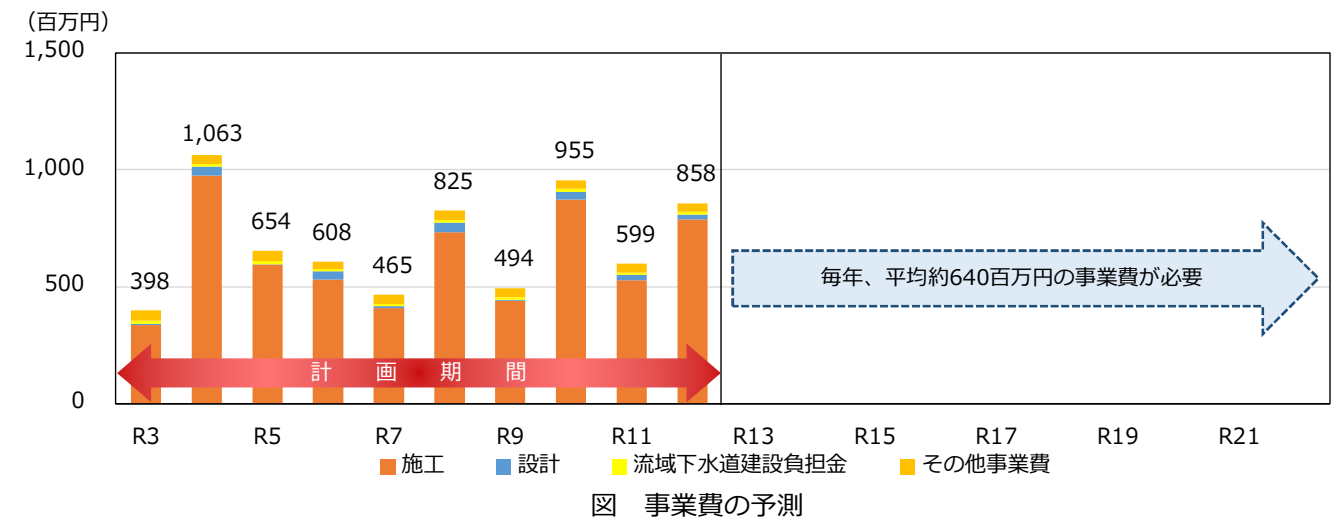


図 事業費の予測

水洗化人口及び使用料収入の予測

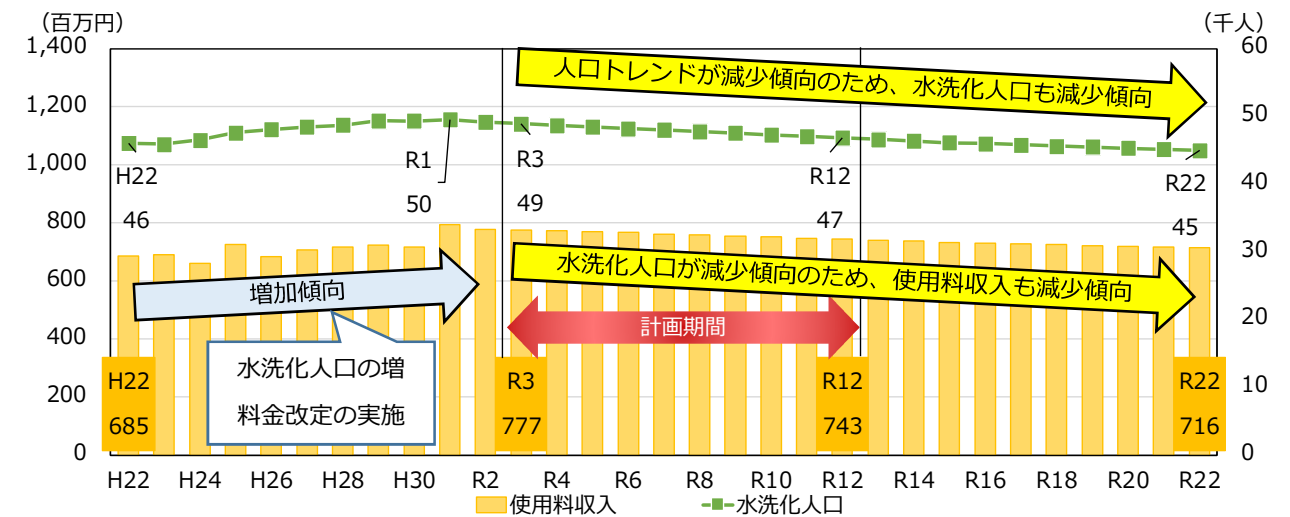


図 使用料収入の予測

投資財政計画

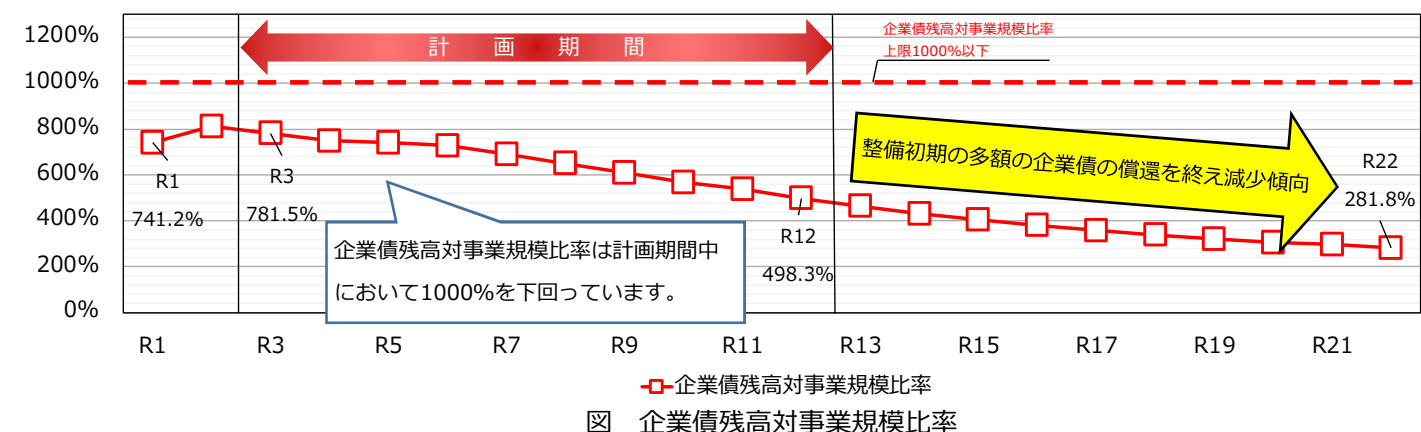
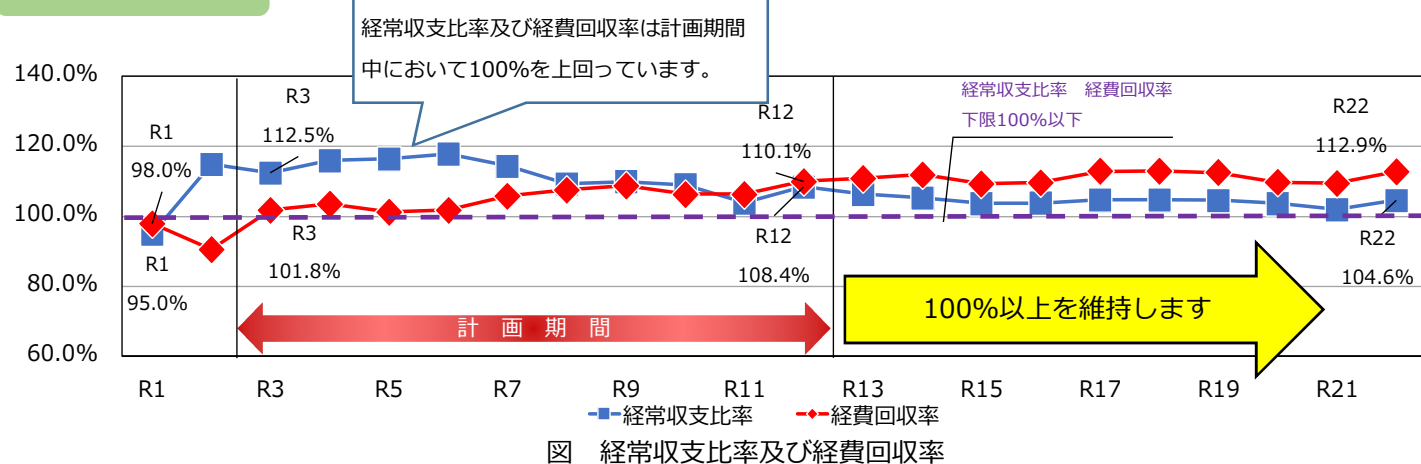


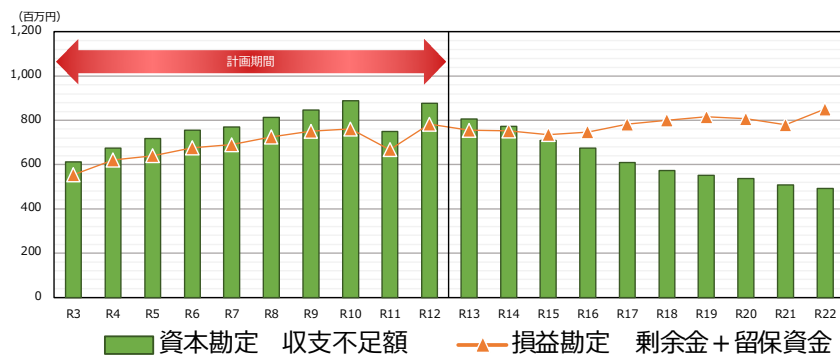
表 財源目標及び達成状況

項目	目標	現状 R1 (2019)	計画 R12 (2030)	評価	(参考) R22 (2040)	評価
経常収支比率	100%以上	95%*	108%	○	105%	○
企業債残高対事業規模比率	1000%以下	741.2%	498%	○	281%	○
経費回収率	100%以上	98.0%	110%	○	113%	○

*法適用後の最新値（現況）として、令和2年度の予算書より算定しています。

計画期間において、財源目標をすべて達成。（その後10年間も達成。）

経常収支比率は100%を超えており損益勘定では収益が出るものの、資本勘定ではこの収益を超える不足が発生します。



今後の取り組み

経営改善のため、以下の項目について取り組み、PDCAサイクルにより経営戦略を推進します。

適切な事業投資

- ストックマネジメント計画の定期的な見直し
- 下水道整備

事務事業の見直し

- 民間活力の活用
- 維持管理の効率化
- 広域化・共同化・最適化について

財源について

- 水洗化普及による使用料収入の確保
- 資金調達（使用料改定や長期借入など）

Plan 計画策定

- 経営戦略の策定
- 目標の設定
- 投資財政計画の作成
- 将来の見直し

Do 実施

- 施策の実施
- 施設の改築更新
- 管渠整備
- 下水道使用料の確保

- 投資計画及び財源の見直し
- 事業の平準化
- 下水道使用料の見直し

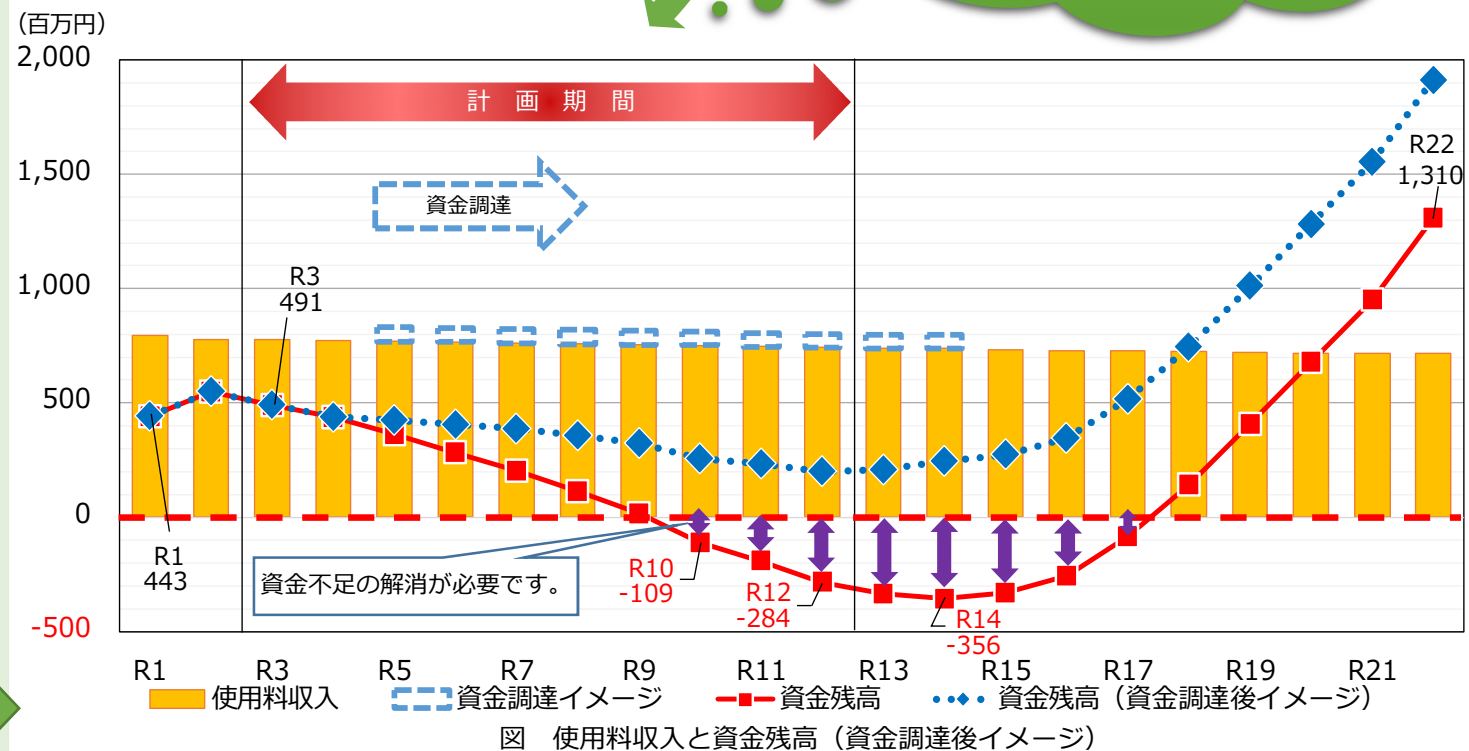
Action 改善

- 目標達成の確認
- 実績推移の把握
- 計画値との比較
- 経営指標による評価

Check 評価

図 PDCAサイクルイメージ

資本勘定の収支不足を補うだけの内部留保資金が不足し、令和10年度に資金に不足が生じます。資金不足解消のため財源の確保が必要です。



将来の安定した経営のために、これまで以上の経営の効率化と経費削減や財源確保のための資金調達（使用料改定や長期借入など）を考慮し、また経営状況を踏まえながら適正な料金体系及び水準を検討しなければなりません。